

ミ
ク
ロ
と
マ
ク
ロ

毎日のテレワークのため同僚と笑い合ったりもできず、おちおち息抜きに家族で旅行もできない。新型コロナウイルスは、人間の生活を変えてしまった。次々やってくるメールに忙殺されると、生活はどうしても近視眼的になり、ストレスばかりが溜まる。

そんな時、マクロとミクロの視点が私を救ってくれる。夜空を眺めると、そこには宇宙がある。宇宙空間から見た小さな地球の写真は、SF作家のカール・セーガンをして「このちっぽけな世界をはるか遠方からとらえたこの写真ほど、うぬぼれた人間の愚かさを表すものはない」と言わしめた。宇宙の中のこのちっぽけな自分が弱れ苦しむ日常の、何と些事であることよ。マクロには私は無である。

一方で、私の意識は、脳の数マイクロメートルの神経細胞の総体に他ならない。数百兆にも達するシナプスの結合が創発する、人間の意識、その存在の素晴らしさよ。ストレスを感じる私の意識もすべて、神経細胞の共創なのだ。ミクロには私は奇跡である。

物質世界は実際は階層的で、大きさでいうなら全宇宙というマクロから素粒子のミクロまで、40桁も異なるスケールがある。時間でいうなら宇宙創生から素粒子の反応までの数十桁の異なるスケールがあろう。人間の1メートル、1秒といった日常感覚は、科学で知られたこれらのスケールから見ると、マクロからは無ほどに小さく、ミクロからは奇跡的な総合だ。

不思議なことに、そこまでのスケールを探索し発見した科学自体、人間の意識が作り出したものである。そのトートロジカルな論理に身を委ねる時、私のストレスは消え失せる。



月周回軌道に人類初めて到達したアポロ8号による、月からの地球の写真。

© SCIENCE PHOTO LIBRARY/amanaimages